

Kudan、「消防技術研究開発センター」の開所式にて、先進3D技術を活用した消防活動支援ソリューションを展示・実演

Kudan株式会社（本社：東京都、CEO：項大雨、以下「Kudan」）は、2026年4月1日（水）に東京消防庁が産官学連携を通じたイノベーション創出を目的に新設した「消防技術研究開発センター」の開所式に協力いたしました。

本センターは、消防行政を取り巻く様々な課題に対し、革新的な技術や新たな運用・戦術の開発を通じて、抜本的な解決を目指す開発拠点です。Kudanは、独自のフォトリアルデジタルツインプラットフォーム「Kudan PRISM」に加え、パートナー企業であるXGRIDS社のハンディスキャナーを活用し、より安全かつ効果的な消防活動の実現に向けた新たな空間認識・現場記録ソリューションの展示・実演を行いました。

当日はKudan協力のもと、濃煙が立ち込める過酷な現場環境を想定した実証実験が実施されました。消防隊員がハンディスキャナーを用いて視界不良の室内をスキャンし、その場で即時に3Dモデル化し現場環境の空間把握が可能であることを示すとともに、取得した3D空間データをKudan PRISM上で活用することで、従来の写真や手書き中心の記録に代わる、より直感的かつ高精度な「新しい現場記録」の形を実証いたしました。



今回の実証を踏まえた、消防分野において活用が期待できる以下の内容等について、引き続き東京消防庁と意見交換を続けていきます。

- **火災・災害現場のリアルタイム空間把握**：濃煙や暗所など視界が制限される環境下においても、現場の空間情報を迅速に取得・可視化し、隊員の安全確保と活動判断の高度化につなげること
- **事後調査・検証の3Dデジタル化**：火災現場の状況をフォトリアルなデジタルツイン基盤であるKudan PRISM上で3Dデータとして記録し、再現・共有することで、事後調査や検証、報告業務の高度化・効率化を支援すること

- **防災計画・訓練シミュレーションの高度化**：取得した3D空間データを活用し、施設構造や危険箇所の把握、訓練シナリオの検討、関係者間での空間情報共有を可能にすることで、平時からの防災計画立案および訓練の高度化につなげること

Kudanは今後も、先端3D空間の再構築・認識技術を通じて、消防・防災分野におけるDXを推進し、平時の備えから災害時の迅速な状況把握・対応、さらに事後検証に至るまで、一貫して社会の安全性向上に貢献してまいります。

施設概要

東京消防庁 消防技術研究開発センター

所在：東京都渋谷区幡ヶ谷一丁目13番20号

URL：https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/ts/ansuishin/rd_center.html

【Kudan株式会社について】

Kudanは、フィジカルAIの発展を支える空間知覚技術＝「機械の眼」を提供し、次世代デジタルツインとロボットの中核を担います。現実空間を知覚してデジタルツインを生成しAIが理解することで、現場管理のDXや生産性向上に貢献します。また、ロボットが空間をデジタルに知覚し、複雑環境での自律行動を行うための基盤技術も提供しています。

詳細な情報は、Kudanのウェブサイト (<https://www.kudan.io/jp/>) をご参照ください。

■会社概要

会社名：Kudan株式会社

証券コード：4425（東証グロース）

代表者：代表取締役CEO 項 大雨

■お問い合わせ先は[こちら](#)